

病院だより No. 3

「看護師の役割とは」

私は看護学校を卒業後、札幌麻生脳神経外科開設と同時に新卒看護師として就職しました。仕事を覚えるまでには無我夢中で、周りがようやく見えるようになるには3年はかかったと思います。今では死語かもしれませんが、まさに「石の上にも3年」だと実感しました。

脳外科は24時間、救急を受けており、くも膜下出血、脳梗塞など、突然の発症で多くの患者さんが救急搬送されてきました。治療が一段落しても様々な障害が残存しご本人だけではなく、ご家族も、これからの生活をどう再構築して行くか途方に暮れる事が少なくありませんでした。医師の治療が終わっても看護は続きます。

「残存機能を活かし生活を再構築する。あきらめない看護」が目標でした。看護師には4つの基本的責任があります。①健康を増進②疾病を予防③健康を回復④苦痛を緩和する、看護の二一ツはあらゆる人々に普遍的で、勤務する場所が変わってもこの仕事を続ける限りこの責任は変わりません。

人間は生まれて、成長し、色々な人と関わり、そして最終的には亡くなっていくものです。関わってきた人々の人生の各ステージで

「支えること」ができる看護の仕事はとてもやりがいがあります。

看護を通じて支えたことは自身自身に跳ね返り自分自身を成長させてくれると思っています。しかし、私が地元を離れ、好きな仕事を続けている間に、父と祖母はこの天塩町の救急隊員や病院の方たちに、お世話になり亡くなりました。親孝行も何も出来ていませんでした。今思うのは自分が看護を通して人を支えてきた分、父や祖母は天塩の町民の方々に支えてもらえていたと感じています。祖母や父にできなかった看護を母や町民の方にさせていただこうと思いい、帰ってきてから5年目になりました。

医療は日々変化していきます。

病院完結型の医療から地域包括ケアへの移行の時代と変化しています。患者さんは医療機関と地域を行ったり来たりするようになりました。専門的な治療を受けるには稚内、名寄、旭川などから遠く離れていますから普段からの予防が大切です。病院だよりNo.1と2で林医師と橋本医師から「病気にできるだけならないように予防すること。病気になるても早く見つけて治してしまう予防医療が大切」と書かれていましたが、高齢のご

夫婦で生活されている方、子供さんが遠くで一人暮らしをされている方が沢山いらっしゃいます。患者さんは「長く住んだ天塩で暮らしたい。ここで死んでいきたい」と話されます。それを叶えるためにも単に寿命を延ばすのではなく健康寿命を延ばし最期まで住み慣れたこの天塩の地で生きて戴きたいと思っています。そのために私達を是非、活用してください。看護師の中には様々な資格を持った職員がいます。糖尿病療養指導士や内視鏡検査技師、認知症ケア専門士、介護職員には介護のプロの介護福祉士の資格を持った職員もいます。病気のこと、介護の仕方などお役に立てることがあると思います。病気を治すことも勿論ですが、健康を維持していく事にも

病院を利用していただきたいと思っています。

また、病院は様々な地域の方達と連携しています。

重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを

【プロフィール・資格など】

(昭和58年) 天塩高校卒業

(昭和60年) 留萌医師会看護専修学校卒業

(平成6年) 琴似中央病院付属看護専門学校卒業

【職歴】

(昭和60年～平成18年) 札幌麻生脳神経外科病院勤務

(平成18年) 年老健のっぽろ 介護支援専門員として勤務

(平成19年～24年) 介護付有料老人ホームフルールハピネスていね・しろ勤務

(平成24年) ファミリードクターズホーム西岡立ち上げ

(平成24年10月～) 天塩町立国民健康保険病院勤務

【資格】

- ・看護師
- ・介護支援専門員
- ・愛犬飼育管理士

(文町立病院 看護部長 佐々木千代子)

人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムの中の一つの機会です。大きな都市ではできないようなことが、人口3,200人の天塩町だからこそできる医療があると思っています。

最後になりますが、看護師は、人が「生きる」という事と「死に行く」ことの現場に触れる機会が最も多い職業です。今を必死に生き、自分の望む死を迎えたいと願う人たちの支えとなるよう、これからも、私たちは、誠実にやるべきことを必死でやっています。

